

# 「乳酸菌生成エキス」は3年7カ月かけて作られています！ (土壌づくり~大豆栽培~豆乳培地による発酵と熟成の流れ)



2017年						2018年						2019年															
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月~4月	5月	6月~10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月					
<b>土壌肥料(緑肥)①</b> ひまわり種まき			<b>土壌肥料(緑肥)②</b> ひまわり開花生きこみ 紅花苧草種まき			トラクターで定期的なすきこみ 紅花苧草開花生きこみ			<b>土壌肥料(緑肥)③</b> エンバク種まき			エンバクすきこみ			トラクターで定期的なすきこみ 大豆種まき(フクユタカ)			「乳酸菌生成エキス」の培地用豆乳のための大豆栽培 化学農薬不使用栽培のため、雑草・害虫との戦い						大豆収穫		大豆室内乾燥	

ひまわりを畑にすき込むと…有用微生物(VA菌根菌)が増え、大豆の実りにつながるリン酸分の土壌吸収がアップ!

紅花苧草を畑にすき込むと…土壌を改良し、害虫センチュウを抑制。

土壌づくりのための2種の緑肥を畑にすきこんだぞ!

エンバクを畑にすき込むと…害有用微生物が増え、リン酸吸収をアップさせ、害虫センチュウや病原菌系を減らし、フカフカのよい土壌になる。

さあ、これで大豆栽培の土壌づくりが完成!

大切に育てた大豆だから、丁寧に手で刈っています!

「乳酸菌生成エキス」をつくる時に必要な「豆乳」のもとになる「大豆」。その品種はフクユタカを使用しています。バランスよい発酵と静岡の土壌に適しているからです。大豆フクユタカは、豊かな畑で育てたいため、1年10カ月をかけて準備します。上図の通り、時期をかえ、3種類の緑肥を栽培し、畑にすきこみます。

農薬を使わないで栽培するため、大豆栽培が始まると、約6カ月のあいだは雑草と害虫との戦いです。無事に育った大豆たちは11月に収穫。乾燥、選別を経て、豆乳の仕込みへとすすみます。ピーアンドエスが選りすぐった16種類の乳酸菌は、この豆乳とともに発酵、1年間じっくりと熟成されていきます。

ここから、有用成分だけを抽出したものが「乳酸菌生成エキス」になります。「乳酸菌生成エキス」は、大豆畑の土壌づくりから完成まで、3年7カ月を要します。(農場長：前田信一)



豆乳+16種の乳酸菌で発酵・熟成：1年 | 大豆乾燥・選別：3カ月

2021年				2020年											
3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	

